

より良い生き方とは

長崎県立豊玉高等学校

二年 波多江 彩音

科学技術の発達によつて、人間の寿命はぐ
んと延びた。長寿はとも良いことだが、そ
の時間をどう過ごすかによつては、本当に良
いと言ええるのか、と疑問に思う。年を取つて
も美味しいご飯を食べ、自分の足で歩き、好
きなことが出来る、というのが誰かが願う理
想の老後ではないだろうか。しかし、実際は

No.

No. 1

介護を受けたり、ベッドで寝たきりで延命装
置を着けたりしている方も多い。私は長生き
したいが、人間の基本的な機能が働かなくな
ることも、無理して生きたいとは思わない。限
られた時間をどう過ごすかが大切だと思ふ。
高齢化が進む現在、その高齢者のうちどれ
くらいの人か理想とありの老後が送れている
のだろうか。ここに一つ实例を挙げたい。
一九八六年ごろ、徳島県上勝町で始ま、た
「葉っぱビジネス」というものがある。一葉

っほビジネスは、季節の葉っぱや花、山菜
 など栽培、出荷、販売する農業ビジネスの
 ことだ。取り扱う植物の約八割は、料理の飾
 りに使われる。つまものである。この葉
 っぱはビジネスの最大の魅力は、高齢者が活
 躍できる、という点にある。高齢者が主体と
 なって行われ、いる。葉っぱビジネスは、
 年間約二億円の収入があり、さらには高齢
 者の健康維持や寝たきりの防止もできるよ
 うになった。

何故こんな成功したのか。その理由の一
 つに、ICTの活用がある。そうだ。ICT
 の導入によって作業の効率化が実現され、こ
 のビジネスの成功に拍車をかける形となっ
 た。このビジネスは、高齢者が自分の地域を活
 かしたビジネスで、自分でお金を稼いでいる
 ところが素晴らしい。自分たちで植物を栽培
 し、仲間と一緒に作業したり、ICT機器
 で自分の売上げを確認したり。生産
 性の無い老後を超え、すより余程楽しく、充実

した生き方だろう。先述したとおり、寝たきりの予防や健康維持につながるので、年金頼りの生活もしくなくてよくなる。

対馬は、高齢者でもまだまだ現役の方が多いという印象がある。漁師、農家、政治家、バスの運転手、このように高齢者が支える社会というのも悪くない。むしろ、若者も負けないくらい活躍すべきだ、というメッセージにも思える。

高齢者を支えるのにはなく、高齢者が自立するたぐい支えること、それが私たち若者がすべきことである。私たちも高齢者になったときには、支えられつつ自立する、それがより良い生き方、より良い社会のあり方だと思う。